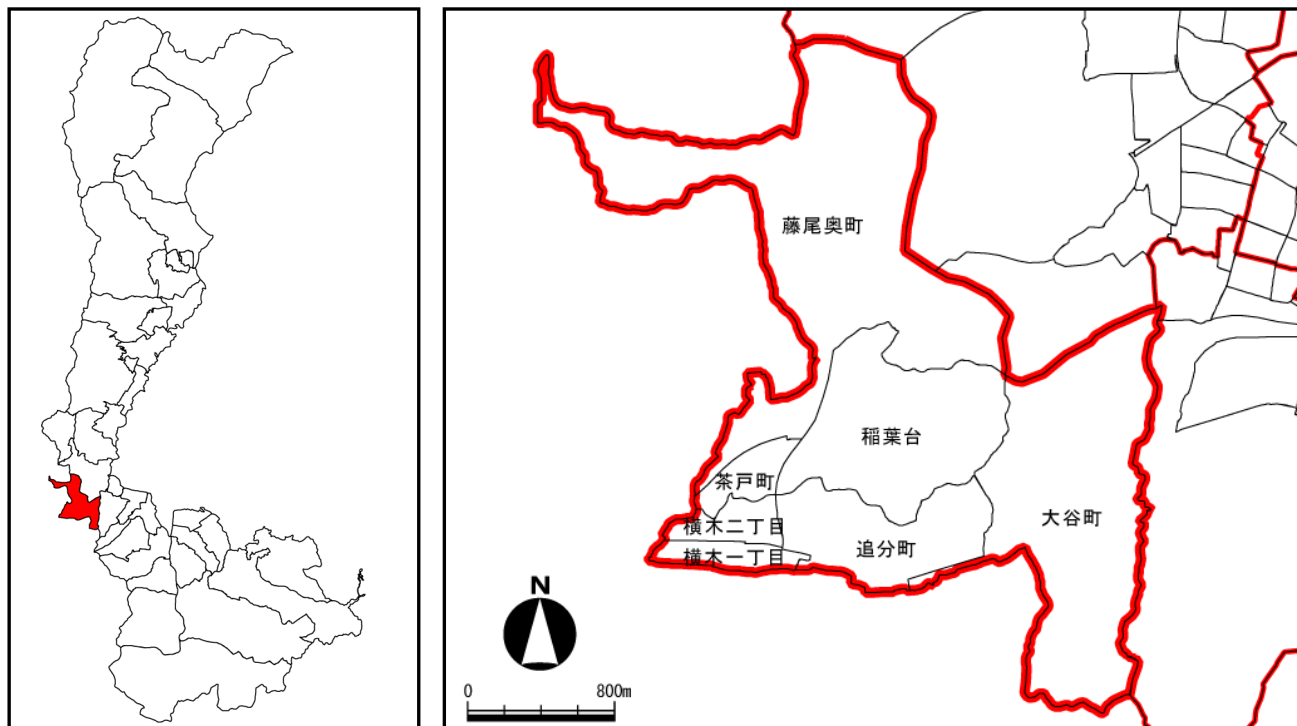


■ 学区の概況



<町丁名>

大谷町、追分町、藤尾奥町、稲葉台、茶戸町、横木一丁目、横木二丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

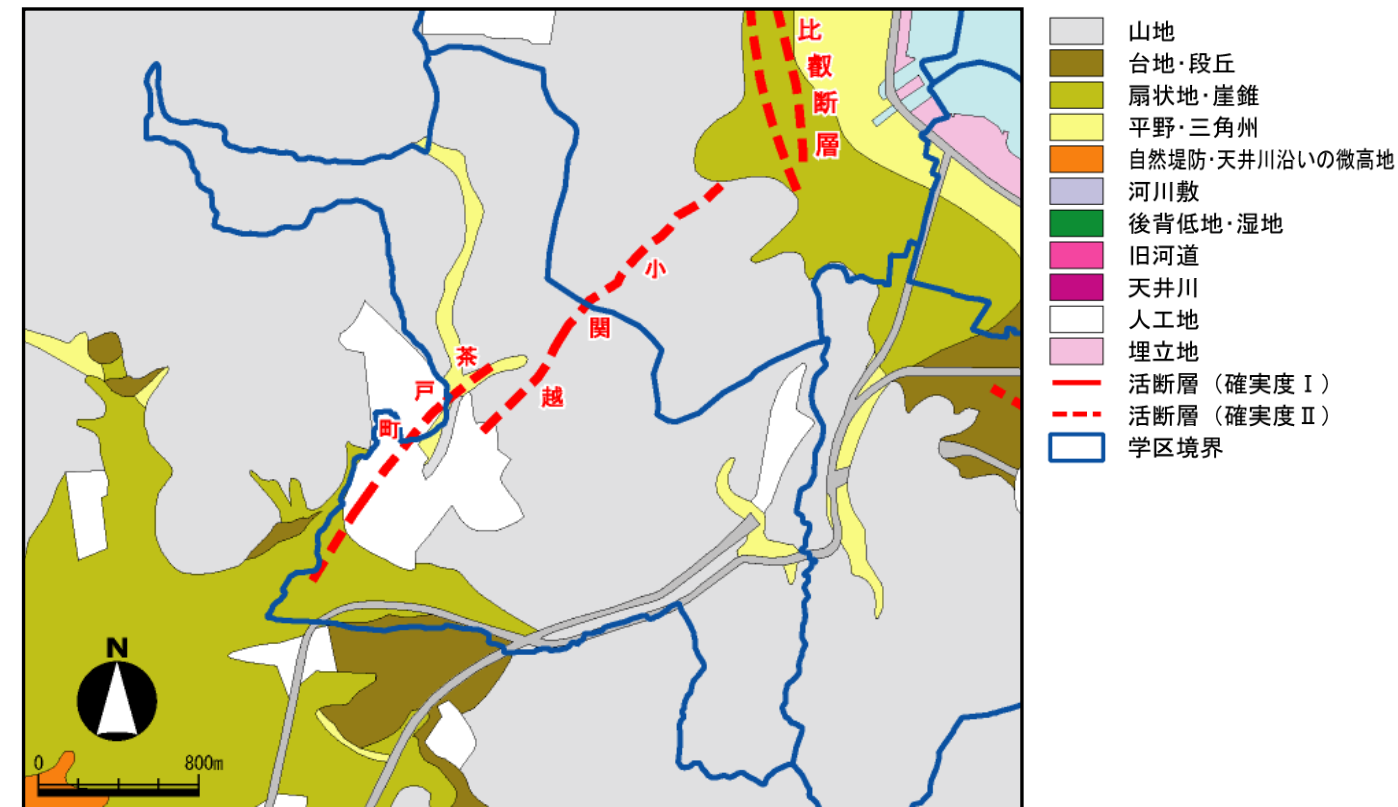
<学区の特徴>

藤尾学区は、大津市街から長尾山系、音羽山系を隔てて、大津市の西端に位置している。

本学区は近江と山城の境にあり、小関越と逢坂越への街道に沿って発展してきた。横木一丁目の旧東海道付近がその趣を今に伝えている。また、追分町には京道と伏見道の分岐の道標がある。現在も狭い谷あいには国道1号や西大津バイパス、名神高速道路、JR 琵琶湖線、京阪電車が通り、交通の要衝としての位置付けは変わっていない。

大谷町を中心に17世紀半ば頃から庶民文化である大津絵が盛んとなり、行き交う旅人の土産物として人気があった。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 藤尾学区の大部分は、山地である。この地域は比叡山地の西側斜面に当たり、その水系は琵琶湖へは注がず、京都市山科区で山科川へ合流する。
- 京都市山科区に隣接する南西部は扇状地、茶戸町や藤尾奥町の南部は人工地である。

<地質の特徴>

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。稜線は標高300~400mであり、比較的緩やかな山容を見せる。
- 稲葉台地区はこのような山地斜面を人工改変して新しく開かれた町である。

<活断層の特徴>

- この地域には、確実度Ⅱの活断層である「小関越」と「茶戸町」が通過している。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
大谷町	62.9	95.4	80.2	74.9
追分町	61.1	95.1	77.5	55.6
藤尾奥町	67.6	97.2	79.0	46.3
稲葉台	79.6	90.7	74.9	63.8
茶戸町	78.8	72.4	72.1	46.1
横木一丁目	73.4	74.5	76.7	64.0
横木二丁目	85.4	68.3	82.6	45.3
学区平均	72.9	93.7	77.4	56.6
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 72.9 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha を上回り、市内で 4 番目に高い。
- 不燃領域率の学区平均は 93.7% で市平均の 93.9% と同程度である。
- 木造率は、横木二丁目 が 82.6% で最も高く、茶戸町 が 72.1% で最も低い。学区平均は 77.4% で市平均 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、大谷町 が 74.9% で最も高く、横木二丁目 が 45.3% で最も低い。学区平均は 56.6% で市平均 40.3% より高い。

■ 人口の状況

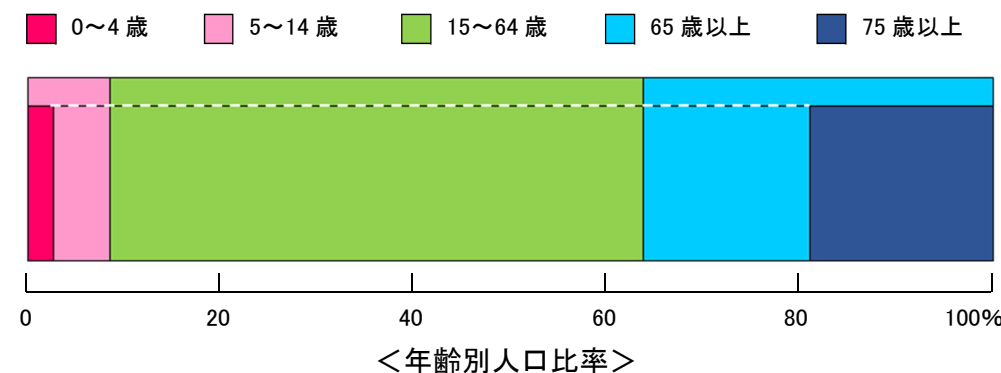
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	5,026	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	132	人	学区人口に対する割合	2.6	1
年齢別 (5~14 歳)	292	人	学区人口に対する割合	5.8	1
年齢別 (15~64 歳)	2,777	人	学区人口に対する割合	55.3	1
年齢別 (65 歳以上)	1,825	人	学区人口に対する割合	36.3	1
年齢別 (75 歳以上)	960	人	学区人口に対する割合	19.1	1
世帯数	2,542	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.0	人/世帯		—	2
要介護認定者	377	人	学区人口に対する割合	7.5	3
身体障害者 (要配慮者)	74	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者 (要配慮者)	8	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	99	人	学区人口に対する割合	2.0	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 京都市山科区に隣接する南西部の扇状地は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 1825 人、乳幼児 (0~4 歳) は 132 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 36.3%、2.6% である
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 377 人 (7.5%)、身体障害者 (要配慮者) は 74 人 (1.5%)、知的障害者 (要配慮者) は 8 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 99 人 (2.0%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <sup>(注1)</sup>	33 箇所	1
土石流危険渓流 <sup>(注1)</sup>	21 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	42 箇所	2
土砂災害警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	54 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <sup>(注1)</sup>	5 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） <sup>(注1)</sup>	1 箇所	3
雪崩危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	1
浸水想定区域 <sup>(注3)</sup> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
重要水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）  
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）  
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）  
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 藤尾学区はほとんどが山地からなるが、谷筋に沿った斜面は土石流危険渓流の影響範囲や急傾斜地崩壊危険箇所、山地災害危険箇所に指定されている。
- 学区内に土砂災害警戒区域に指定されている箇所がある。
- また“小関越”“茶戸町”という活断層が北東-南西方向に通過している。それらの危険箇所付近に比叡断層が南北に通過する。
- 土石流危険渓流、山地災害危険箇所および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であるが、市街地部の内水氾濫にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性がある。また地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	藤尾小学校グラウンド	○	○	○		茶戸町 10-1
	永興藤尾こども園グラウンド	○	○	○		茶戸町 22-6
	市営大谷団地一帯		○	○		大谷町 6
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	藤尾市民センター	○	○	○		横木二丁目 4-1
	藤尾小学校体育館	○	○	○		茶戸町 10-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<京都市山科区音羽学区避難所>※

種別	名称	所在地
避難所	音羽小学校	山科区音羽森廻り町 32
	一燈園小学校・中学校・高等学校	山科区四ノ宮柳山町 29

※ 大津市と京都市は、平成 26 年 4 月に藤尾学区と山科区音羽学区の住民が、災害時に互いの避難所を利用できる協定を締結した。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
藤尾市民センター	横木二丁目 4-1	522-3876

<警察 110>

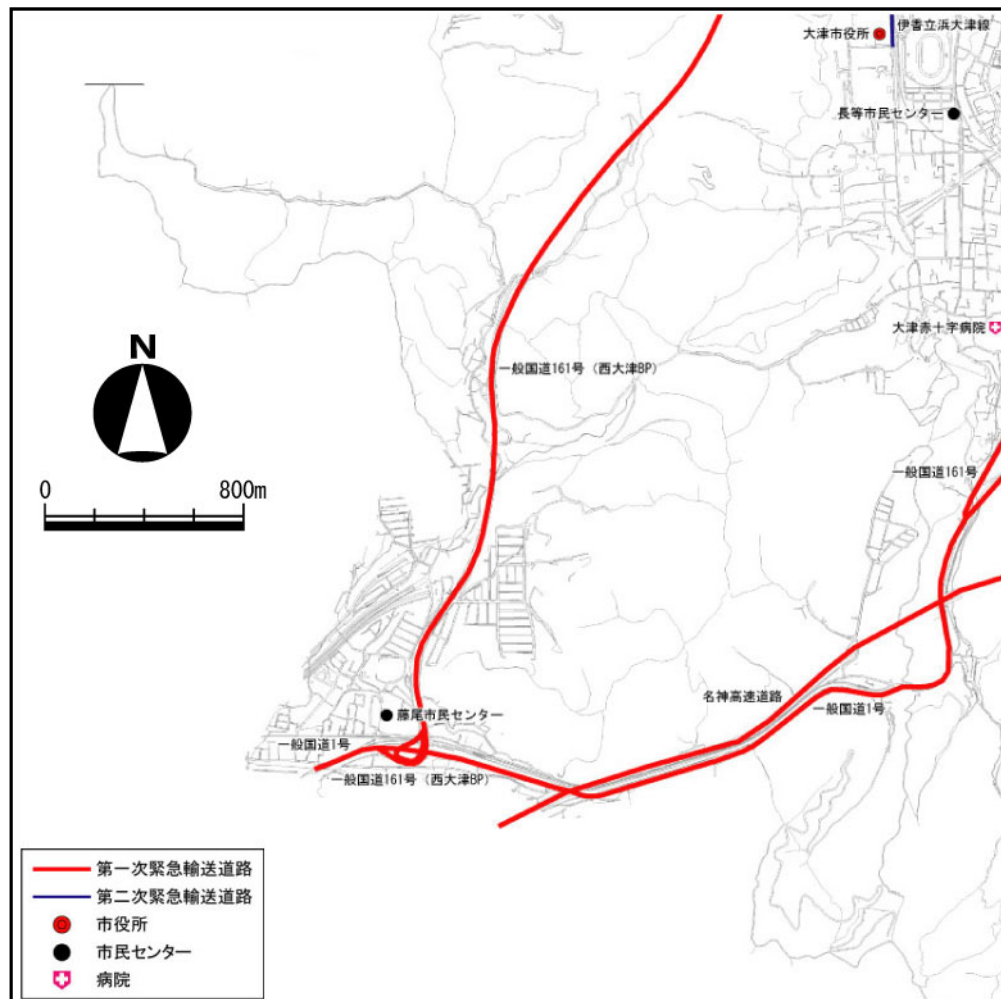
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
藤尾交番	追分町 1-30	524-5551

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
藤尾分団	横木二丁目 4-1	525-5866



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定 ケース	建物 棟数	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース 1	2,148	5,893	0	60	30	0	0	0	7	3	5	1	0	0
ケース 2	2,148	5,893	2	276	141	0	0	0	43	18	28	4	2	3
ケース 3	2,148	5,893	0	258	129	0	0	0	41	19	27	4	2	3

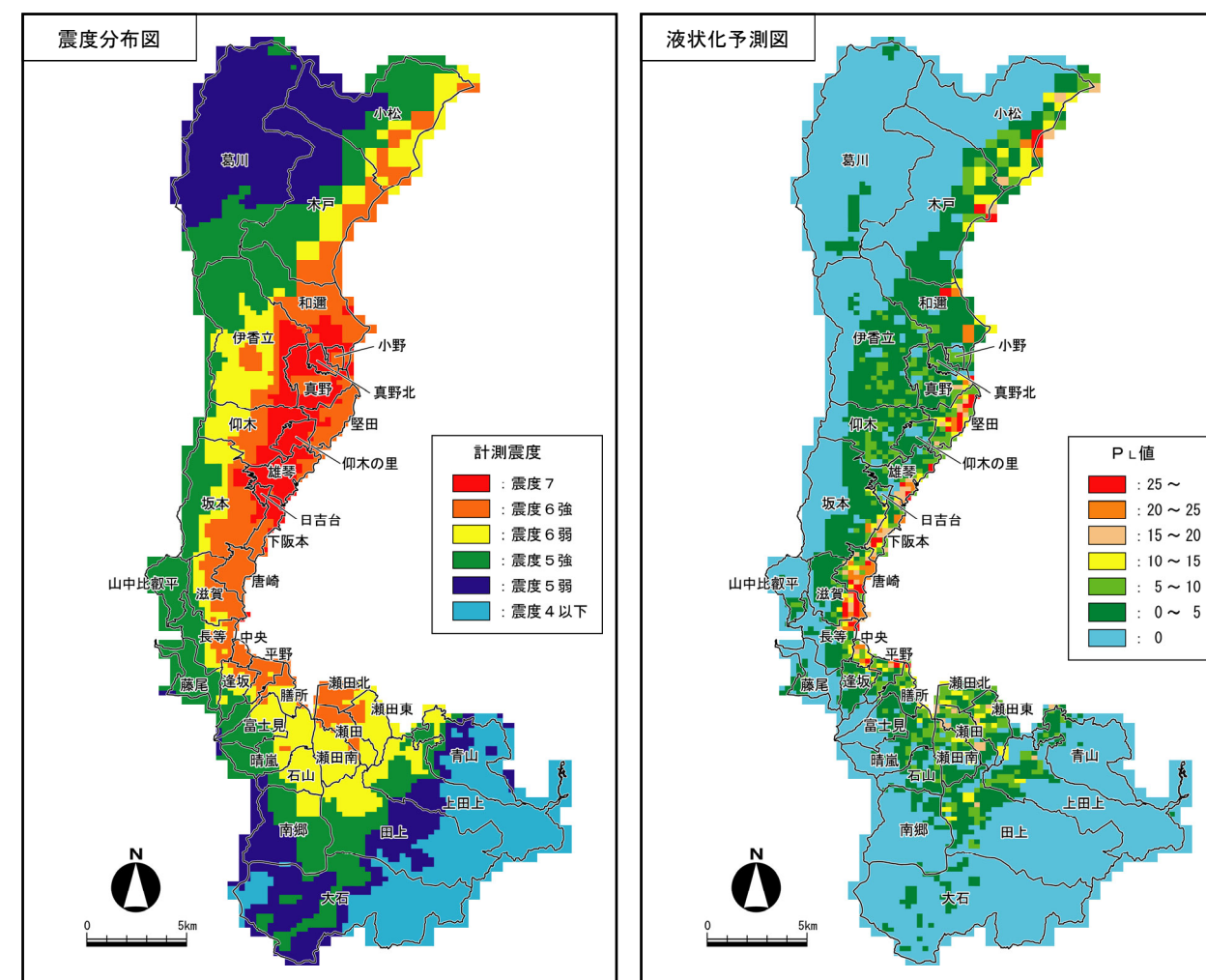
被害想定 ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース 1	0	0	0	33
ケース 2	0	0	0	204
ケース 3	0	0	0	199

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース 2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)